

## 行政視察報告書

委員会名（会派名）	市民クラブ	報告者	タナカ・キン
視察日程	令和2年2月5日（水）～ 2月7日（金）		
調査事項 及び 視察地	① 「義務教育学校・ICT教育」について（佐賀県 多久市）		
	② 「校長先生の知恵袋事業」について（佐賀県 嬉野市）		
	③ 「ろく・さんプラン教育推進事業」について（佐賀県 嬉野市）		
	④ 「議会改革の取り組み」について（長崎県 諫早市）		
	⑤ 「タブレット端末導入」について（長崎県 諫早市）		
参加議員（委員）	渡邊広宣、タナカ・キン、柳川 隆		
<p><b>【調査目的・内容等】</b></p> <p>孔子の教えが息づく多久市では現在、「多久学」を核に、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの取り組みが進んでいる。</p> <p>・「義務教育学校」とは  多久市では平成25年度から全国に先駆け小中一貫教育を開始し、小学生と中学生がひとつの学校で学ぶ教育実践を積み重ねてきた。この実践が全国に広がり、平成27年6月には学校教育法の一部が改正され、これまでの小学校、中学に加え「義務教育学校」が新たな校種として位置づけられた。このことを受け、多久市では小中一貫校3校を平成29年4月1日から「義務教育学校」に移行した。多久市が学力向上や豊かな人間性の育成、中1ギャップの解消を目指して取り組んできた「小中一貫教育」が制度化され、正式に「義務教育学校」の名称で一層推進することが出来るようになったとのこと。</p> <p>文科省の調査によると、平成29年度時点で予定を含めた設置数は48校、小中一貫型小学校・中学校253件、令和5年度までに倍増の見通しとのこと。</p> <p>① 小中一貫教育課程として、前期（1年～4年）、中期（5年～7年）、後期（8年～9年）として、発達段階に応じた学習指導や生徒指導を統計的、継続的に行うことが出来る。</p> <p>多久市では、小学校7校と中学校3校を3つの一貫校に編成したが、きっかけは複式学級を解消することだった。当時は市内の2校で複式学級があった。単純な対策は学校の統廃合だが、それだけでなく、新しい魅力のある取り組みを考え、中1ギャップ解消など、様々なメリットがある小中一貫を考えてのことだという。</p> <p>・「ICT教育」について  多久市では、全国初の学習系・校務系のフルパブリッククラウド化により、常に「最新」が使える教育ICT環境が実現している。</p> <p>具体的には、校務用・教務用サーバをクラウドに移行し、市全体で教材や各種資料を共有できるようにした。このことで、教材作成のための時間の短縮を期待している。</p> <p>セキュリティ対策についても、個人情報を分離し、情報管理の徹底に努めている。また、教育ICTの円滑な運用に期するためにICT支援員を全校に配置し、教職員一人ひとりへのサポート体制の充実も図っている。</p> <p>これらは、児童・生徒の「学び方」改革だけでなく、教職員の「働き方」改革も推進している。</p>			

## 【調査目的・内容等】

## ・「校長先生の知恵袋事業」について

本事業は、「特色ある学校づくり」・「学力向上」・「体験学習の充実」の3つを大きな柱として、保護者や地域の願い、児童・生徒の実態をふまえた教育活動を推進するものである。

市内の小学校7校と中学校4校が学校独自の取り組みのアイデアを持ち寄り、11人の校長先生が来年度に向けた事業内容のプレゼンを行っている。

事業は、2008年度から始まり、今年で11回目。今年度の予算は200万円で。発表内容に応じて各校に予算を配分する。予算の積算の基礎として、児童・生徒数があり、人数によって割り振った後に、計画とプレゼンの内容を審査して、最終的な学校予算が決定される。発表時間は1校15分で、市の教育委員や教育長など8人で審査を行っている。

それぞれの学校で知恵を出し合って事業展開をしている。具体的な実践例として、

- ②
- ① 「特色ある学校づくり」  
吉田中学校では、パブリックアートの制作に取り組み、体育館の横に壁画を描いた。吉田焼をモチーフにしたデザインで、お茶の袋のデザインとして採用されている。
  - ② 「学力向上」  
久間小学校では、学習指導要領の改訂を見据えて、英語の部屋を開設し、昼休み等に児童が英語に親しめるような環境整備を行っている。
  - ③ 「体験学習の充実」  
嬉野中学校では、佐世保米軍基地でガールスカウトとの交流を行った。また、ホバークラフトの見学や運転のシミュレーションなどを行った。

200万円という低予算の中で、それぞれ地域の活性化につなげようとしたり、学習指導要領の改訂を見据えたりしながら、校長先生のマネジメント力によって、特色のある取り組みがなされているところは、私たちも大いに学ぶところがあると感心させられた。

## 【調査目的・内容等】

## ・「ろく・さんプラン教育推進事業」について

2018年～20年度の事業で

- ③
- ① 小中連携教育の確立を目指す「ろく・さんプラン教育」の実践  
各中学校区において、小中の教員による相互乗り入れによる授業、小中合同研修会、9年間を見通したカリキュラム開発等、小中の学びの連続性を確立する。
  - ② 小学校から中学校への滑らかな接続
    - (1) 学習面においても、スムーズな中学校生活が始まるよう「春休みの課題」の内容を工夫している。
    - (2) ノーテレビデーの同日実施など一貫性・統一性を持った指導の在り方を研究する。

私たち市民クラブの視察に、教育長から説明していただいたことが、教育長の教育に対する熱い思いがストレートに伝わってきて、これまでのどの視察よりも有意義であった。

また、私は、燕市の総務文教常任委員であるが、児童・生徒の教育に関して、もっと研究せねばと強く感じた視察であった。

**【調査目的・内容】**

## ・「議会改革の取り組み」について

議会改革については、これまで多くの自治体へ視察を行っているので、これらと思うものをピックアップする。

① 一般質問は、一問一答制（平成 22 年 3 月定例会から実施）重複質問を解消するため、会派内において十分な調整を行う。

② 予算決算常任委員会の設置（平成 22 年 3 月定例会で委員会条例を改正）

全体会と分科会に区分（詳細審査等は常任委員会単位で構成する分科会が担当）

③ 議会報告会「わがまちトーク」（平成 26 年 2 月から実施）

④ 平成 26 年 2 月 4・6 日、市内 6 会場で開催、479 人の参加者があった。1 回目は議会運営委員会、2 回目以降は実行委員会が主体で運営を行う。開催後は、報告書をまとめるとともに、市民からの提案等については、執行部に連絡し対処方針を確認することとしている。これまで 7 回実施。

④ 自由討論の促進

議会は言論の府であるとの原則から、議員間の自由討論を積極的に推進している。

⑤ 議会基本条例の進捗状況の検証

議会基本条例の目的の達成度合いを 43 項目に分け、A～D ランクで検証し、結果をホームページで公開した。

これらは燕市でも取り入れてみたいと思ったし、研究が今後も必要だと感じた。

**【調査目的・内容】**

## ・「タブレット端末導入」について

① 「タブレット」の本格導入は、平成 29 年 9 月定例会からで、開催通知や事務連絡等は F A X との併用からメールのみとなった。

⑤ ② 令和元年 6 月議会から議場内において Wi-Fi 通信が可能となった。

③ 年に 1 回、タブレットの研修を行っている。

今回の視察は、これまでの視察と比較して、内容の濃いものであり、当市の運用と重ね合わせながら再度考えるきっかけとなった。

【視察の様子】

① 多久市



② 嬉野市



③ 諫早市

